

---

# 運命と軌跡と共に

エンブレム

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

運命と軌跡と共に

### 【Nコード】

N8863Y

### 【作者名】

エンブレム

### 【あらすじ】

ヴァイロン連合軍とインヴェルズの戦争が終結して数日後。ヴァイロンたちは自身の理想世界を目指して動いていた。しかし、ヴァイロンたちの目指そうとしている理想世界は地上世界の種族たちにとって受け入れられないものだった。ヴァイロンたちはインヴェルズを倒したと言うのに地上世界で未だに起こる戦争に絶望したヴァイロンたちは地上世界を封印すると決めた。そして、人間界の聖志高校の2年生。国崎光聖はルーキーと呼ばれている天才決闘者。そんなある時、彼は偶然に1人の気絶している精霊と出会った。その

精霊。ガスタの巫女ウィンダからヴァイロンから精霊界の地上世界を守って欲しいと言われるのだった。

## プロローグ

「馬鹿な！我々、インヴェルズがこんなところで……！ぐあああああああああ！」

ヴァイロン連合軍の活躍によって、インヴェルズは次々と滅ぼされていく。

「アルファ、オメガ……。そして死んだ者たちよ……。お前たちの死は絶対に無駄にしない……。」

ヴァイロン・アルファとヴァイロン・オメガ、そして多くの連合軍がこの戦いで死んでしまっている。

この戦いが終わったら、世界は平和になるはずだった

今後のヴァイロンの決断はとても悲惨なことだった

ヴァイロンは自身の徹底した理想世界を目指す。しかし、地上世界の種族たちにとってはそれは受け入れられないものだった

「地上世界はインヴェルズが滅んだと言うのに争いが絶えない！」

「このままでは地上世界は腐っていく！」

「我々は地上世界を封印する！」

「ヴァイロンたちが地上世界の封印を決断しただど！？！ったいど  
うして！？」

地上世界の種族たちはこのことに大騒ぎしていた。

「ヴァイロンたちには地上世界の観測は無理だったのかも知れんな  
……。ヴァイロンたちは争いを続けてしまった我々に絶望してしま  
ったのだ。争いを続けてしまった我々にも責任はあると思うがだか  
らと言って、地上世界の封印は認められない！ヴァイロンを倒して  
我々の世界を守るのだ！」

地上世界の種族たちはヴァイロンとの戦いに備えて再び団結する。

しかし、今だに争いを続ける地上世界に飽きることなく繰り返し返さ  
れる戦いにヴァイロンたちは絶望し、地上世界の封印と言う判断を  
してしまうのだった

そして、ここに地上世界の種族たちとヴァイロンの戦争が始まる  
うとっている！

## プロローグ（後書き）

EB「初めまして、エンブレムです。気軽に書ける小説として書く予定の運命と軌跡と共にです。この小説は他のDTストーリーとはまったくの無関係の方針を作ります。もちろん、今話題になっていくセイクリッドやヴェルズが登場する予定です。この小説ではインヴェルズを撃退したヴァイロンと地上世界の種族たちが戦おうとしているところから始まります。つまり、DTで言っているとエクシーズ始動からスタートです。どんな決闘シーンが来るのか結構見物になってきます。さらに決闘シーンだけではなくバトルシーンもあります。ご期待ください」

## 第1話 ガスタの巫女ウイ ندا

朝、起きる茶髪の少年がいる。

国崎光聖くにさきこうせいにとって、朝は結構早く起きる。

光聖は制服に着替えるとリビングへと足を進めていく。

「お早う。兄さん」

台所まで来ると茶色の長い髪をした少女がいる。

「ああ。お早う」

彼女の名は国崎聖納くにさきせいな。光聖の妹で歳は同じなため、学年クラスも同じである。

光聖は聖納と一緒にパンを食べる。

「兄さん。今日は学校で1学期の終業式のデュエル大会ね。私も張り切ってデッキを作ってきたんだから」

「そうだな」

聖納はそう自慢すると自分のデッキを光聖に見せびらかす。

「頑張れよ」

聖納の実力は光聖ほどではなく、一般並の実力である。しかし、決闘に対する思いは強い。

「ご飯を食べ終わった2人は家から出て登校する。」

2人が通う学校は聖志高校せいしこうと呼ばれる学校である。

終業式を終えた学校で2人の名前を呼ぶ声がした。

「おーい！光聖！聖納さん！」

「何だ川畑か。どうしたんだ？」

川畑と呼ばれた黄色の髪の少年。川畑春次かわばたはるじがやってくる。

「今日は学校で決闘大会だからよ、期待が出るぜ！そのためのデッキだって調整しているからよ！」

「川畑君。張り切ってるね」

「おうよ！今日はこのために日々デッキ調整を重ねて来たからな！」

川畑も自信満々に決闘大会のためにデッキを組み上げている。自信満々だった。

川畑の言葉に光聖が決闘に勝てないと言う事に駄目だしする。

「お前は何度やっても勝てないだろ？」

「うるせえな！勝ち負けだけが決闘じゃねえよ！」

「それは分かっているから……」

川畑の言葉を適当に流しながら、光聖たちはそれぞれの席へと足を進めていく。

そんな時に校内放送が流れる。

『さて、今日は校内決闘大会です！最後に生き残るのは誰だ！？先生生徒関係せずにレッツバトル！』

「おっしゃー！」

「頑張るぜー！！！」

多くの人の声が騒ぎ出す。

「俺たちも別々に行動しようぜ！」

「そうだな」

「ええ」

光聖たち3人もここで別れて対戦相手を探すことにした。

そこにスタスタと学校に入ってくる一人の黒色の髪をした少女がいる。

少女は教室内を警戒しながらゆっくりと入り、ゆっくりと席に付き、机の中にある本を読み出す。

「静ちゃん！」

聖納は静と呼んでいるさっきの少女のところを駆け寄っていった。「静さん、学校の中でも指折りの美少女で成績優秀。スポーツ万能。



おまけに決闘の腕も相当だぜ。正に学校のアイドルじゃねえかよ……」

川畑の言うとおりに彼女。新田にったしず静は成績優秀でスポーツ万能。決闘の腕も高い。

「どうしたの？聖納さん？」

「決闘大会はお互いに頑張ろうって……」

「ええ」

静は聖納に優しく接する。

そして、決闘大会開催に向けて光聖たちは今動き出した。

校舎裏に来たのは光聖だった。

光聖は対戦相手を探すも結局は見つからずにいる。

「つたく……。面白くねえな……。対戦相手がいなければ決闘も出来ねえ！」

「うう……」

「ん？何だ……？」

光聖は学校の校舎裏で倒れている緑色のポニーテールに杖を持った少女と小さな緑色の鳥がいる。

「この姿、どこかで見たことあるよな……」

「あれ……ここは……？　って人間！？」

少女が目覚めると光聖を見た瞬間にすごく驚く反応をする。

「つまり私の姿が見えるの！？」

「バッチリ見えてるから問題ないだろ。まさかお前の姿はどっかで見たことあると思ったら、ガスタの巫女　ウインダか！？」

ガスタの巫女　ウインダ。確かガスタの巫女である少女だったはず。

「うん。そうよ。にしても私たちカードの精霊が見える人間なんて珍しいわ。始めて見た」

ウインダは光聖の近くまで歩いて光聖を観察し始める。

「何だよ？ジロジロ見るなって！」

「ごめんごめん！」

そして、倒れていた小さな緑色の鳥も目覚めるとウインダの元へと駆け寄って来る。

「ガスタ・イグル？」

「そうよ。ん？どうしたの？イグル？」

イグルはウインダの肩に乗ると鳴き声で何かをウインダに知らせている。

「え！？早くしないとヴァイロンが地上世界を封印してしまうって！？分かってるわよ！」

「ヴァイロンって……」

聞いた話によるとヴァイロンはインヴェルズを封印した神々であるはず。

「お願いがあるの！あなたに私たちの地上世界を救って欲しい！」

「え！？それはつまり……」

「ヴァイロンから精霊界の地上世界を守って欲しいってこと！」

ヴァイロンと地上世界の種族たちが日々争っている。

ウインダたちの住む世界が再び危機になっている事に光聖は放つては置けなかった。

光聖は自分の取り出したデッキを確認し、それをしまう。

「分かった。でも、ヴァイロンたちはインヴェルズを倒したはずなのにどうして戦争になるんだ!？」

確かにヴァイロンはウインダたち地上世界の種族の味方となり、倒したはずなのに戦争になっている。それが大きな疑問であった。

ウインダはその言葉に反応するかのようにゆっくりと地面に座る。「ヴァイロンは私たち地上世界の精霊が未だに戦争を行ってるの。」

ヴァイロンはその私たちがインヴェルズとの戦争が終わったのに未だに戦争を続けていることにヴァイロンたちは絶望し、私たちの住む地上世界を封印すると言う決断を下したのが始まり」

「つまり、戦争は悪いことかも知れないが、だからと言って世界を封印するのは間違っているって言いたいのかよ？」

光聖はゆっくりと状況を整理しながら、ウインダに状況を再確認する。

「そうよ。私たちの住む世界がヴァイロンに封印されなかったためにもあなたの力を貸して欲しかったってわけ」

「そうか。だったら俺も強力するぜ。星の観測者スターゲイザーって呼ばれているそうだけど、結局はやってることが間違ってるさ」

光聖はウインダのためにも精霊界の地上世界を救うことを選んだ。「俺は国崎光聖。よろしくな。ウインダ」

「こちらこそ」

光聖とウインダはお互いに手を取り合う。

「明日から夏休みに入るから俺の予定とかは気にしないでくれ」

「すごく興味深いわね。詳しく聞かせてもらえない？」

「え!？」

「なっ!? 静!?! どうしてここに……!?!」

静が自分たちの話を聞かれてしまったようだった。

「もしかして、私が見えるの!?!」

ウインダも静が自分が見えることに驚いている。

「そうよ」

「何しに来たんだ？もしかしてヴァイロンの手先なのか!？」

光聖は静がヴァイロンの手先だと考えると、ウインダと共に身を構える。

静はため息を付くとゆっくりと喋り出す。

「そんな証拠どこにあるっての？」

「俺たちの話を盗み聞きしたことが証拠に決まってるだろ！」

盗み聞きをしたと考えると光聖は静はヴァイロンの手先だと考え始める。

「そんな誤解しなくていいわよ。私は何も関係無いから安心して」

「そんなわけないよな……。はは……」

光聖はすごく誤解してしまったようだった。

思わず盗み聞きされたらその人は敵と言つのはありえないことでもある。

「その代わり、私も一緒に行くわ」

「え!？」

静の言葉に2人はおどろいた。

「本気なんだな。分かった」

2人は静を受け入れて明日から3人で精霊界へと向かうことにした。

「じゃあ、明日の午前8時にここで待ち合わせましょ」

「そうだな」

「分かったわ！」

3人はここで待ち合わせる約束をここですることにし、精霊界へ行くことになった。

帰り道、聖納は部活の待ち合わせで遅くなることになったため、一人で帰ることになった。

光聖の学校の決闘大会は自分の行方不明のため、脱落となっている。

静も一緒となると大丈夫かと気にすることもあるけど、学校での彼女の実力も高いため少し安心はする。

ウインダは光聖に付いていくことになっている。

「星の観測者様のために国崎光聖！お前を倒す！」

「誰だ！？」

2人が振り返ると1人の男がいる。

その男はボサボサの黄色の髪をしたサングラスの少年だった。

「俺の名は松谷星輔<sup>まつだにせいすけ</sup>。ヴァイロン様の地上世界封印のためにお前を倒す！」

「いきなりヴァイロンからの刺客！？にしても人間だったなんて！？」

ウインダは精霊に関係している人間が3人もいることに驚いている。

「そんなことはどうでもいい！決闘だ！」

光聖は決闘盤を起動させて決闘の体制に入る。

「行くぜ！」

「決闘！！」

## 第1話 ガスタの巫女ウィンダ（後書き）

光聖「なあ、ヴァイロンとの戦いが始まる頃からスタートするの  
よ」

EB「言っただろ？どのDTストーリーとは別方向を目指すって」  
光聖「それはそうだけどよ。俺のデッキってどんなデッキなんだ？」  
EB「さあ？それはお楽しみに。さて、運命と軌跡と共いの第1話  
を更新！次の2話も完成次第に更新予定。セイクリッドとヴェルズ  
も登場予定なのでこれも期待してください。オリカはさらに決闘を  
面白くするために登場します。しかし、OCGカードを中心にしま  
す。ではスタートです！」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8863y/>

---

運命と軌跡と共に

2011年12月5日00時51分発行